

101. ^{さんいんどう}山陰道—^{かまてとうげごえ}鎌手峠越・^{とくじょうとうげごえ}徳城峠越・^{のさかとうげごえ}野坂峠越

選定箇所：^{かまてとうげごえ}鎌手峠越（^{かさのたに}上ノ谷～^{きべごう}木部郷）、^{ろくさいどうむかいちじぞうどう}六斎道向市地藏堂～^{つだやどみほんけ}津田矢富本家、^{しかだ}鹿田

^{とうげごえ}峠越（^{かたこ}片子～^{しもとおだ}下遠田）、^{とうぼうじうら}東方寺裏（^{かみとおだ}上遠田）、^{たおやまごえ}峠山越（^{ふたば}双葉～^{いちめん}一面）、

^{おうぎはらかんもんあと}扇原関門跡（^{ただ}多田～^{ひだりがやま}左ヶ山）（島根県益田市）

徳城峠越—下小瀬～柳（津和野町）

野坂峠越—門林～野坂峠（津和野町）

概要：近世の山陰道は、京から丹波を経て山陰地方を通り、周防国の小郡（現・山口市）で西国街道に合流する街道である。那賀郡に接する土田から美濃郡の中心部益田までの間では、鎌手峠越、鹿田峠越、峠山越などの区間の遺存状態が良い。また、浜田藩と津和野藩が接した扇原関門跡には、土道の両側に両藩の境界石が残る。

徳城峠は『津和野百景図』に描かれるなど眺望景観に優れた峠である。頂上付近の茶屋からは、北側に日本海や高島、南側に青野山などが見える。

野坂峠は津和野城下町と長門国境の間を極めて近距離で繋ぐ特殊な位置にある峠道である。幕末の第二次長州征討の際には、この峠道を挟んで津和野藩と長州藩が交渉を行ったことで戦火が避けられた。徳城峠、野坂峠は大部分が史跡「山陰道」に指定されている。



写真提供：津和野町教育委員会